

# 目次

緒言 ..... 京都大學名誉教授 柳田聖山

## 第一部 初期禪宗思想と中國佛教

第一章 佛性の問題 ..... 一

第二章 無心の周邊 ..... 一〇三

第三章 智儼の成佛思想 ..... 一七一

## 第四章 唯識から唯心へ

一、十重唯識説について ..... 一二七

二、『華嚴宗要義』について ..... 一三八

## ※第五章 圓融の系譜

第二部 禪的個性の開花

第一章 趙州の禪風……………二六一

第二章 趙州と『信心銘』……………三五三

第三章 雲門の禪風 雲門について……………四〇三

第四章 雲門と慧忠 「身心一如」と「無情說法」……………四二七

※第五章 睦州の禪

※第六章 曹山の禪風

※第七章 五位の思想

第三部 圓相の研究

序論……………四四九

第一章 南陽慧忠と耽源應真……………四五九

第二章 滄山と仰山（未完）……………五八三

※第三章 順之の圓相禪

※第四章 圓相の起源と現代的意味

※付 章 宗門圓相集（譯註）

あとがき（英文）……………花園大學國際禪學研究所教授 ウルス・アツプ

研究業績一覽

（本目次の章立ては、著者によって作成されたものである。 ※を付した論文は、本報告書に含まれていないが、著者の構想を知る上で貴重であると考え、そのまま目次として掲載した。 編者）

## 凡例

- 一、本書は、故村上俊研究員の論文一一編（うち、七編は生前に発表されたもの）を収める遺稿集である。
- 一、本書の編集は、国際禪学研究所の研究スタッフが擔當した。
- 一、原則として、本書に引用される、經典名、書名（叢書名以外）は、「」で、また論文名は「」で括った。
- 一、各論文とも、頻繁に引用される著書については、最初の引用にのみ刊記を施した。
- 一、原則として、引用文も含めて、JIS第二水準に含まれる旧漢字を使用した。
- 一、引用文中、原漢文を訓み下して用いたものもあるが、各々の引用に際しては、その旨を付記していない。
- 一、未発表論文中、不完全な註記等には、著者の付した\*\*の表記をそのまま残した。
- 一、「禪文化」誌等に掲載された論文で、形態の異なるもの―註が付されていないなど―も、そのままの形で収録した。